

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こころとからだの発達相談室 えいところ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 26日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 26日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	動作法を支援に活用しており、対象年齢や障害種別を問わず、一人ひとりの状態に応じた支援を提供することができる。	動作法をはじめ、視覚的支援やコミュニケーション支援など複数の視点を取り入れながら、子どもの特性に応じた支援方法を検討している。	動作法や発達支援に関する研修への参加や学びの機会を設け、職員の専門性の向上を図っていく。
2	子ども一人ひとりの発達段階や特性に合わせた個別プログラムを作成し、それぞれのペースに沿った支援をしている。	個別支援計画に基づき、子どもの発達段階やその日の状態を踏まえながら、柔軟にプログラム内容を調整している。	子ども一人ひとりの発達や課題をより丁寧に把握するため、支援内容の振り返りや職員間での共有を充実させていく。
3	保護者同席での支援を基本としているため、子どもの普段の様子や家庭での状況を共有しながら、より発達に即した支援につなげることができる。	保護者同席の支援を通して、子どもの理解や関わり方について保護者と共有し、家庭での関りにもつながるように意識している。	保護者との情報共有の機会を大切にしながら、家庭と事業所が連携して子どもの成長を支える体制づくりを進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会や、保護者向けの研修・学びの場を十分に提供できていない状況がある。	個別支援や保護者同席での支援を重視しているため、日々の支援に多くの時間を要し、保護者会や保護者向け研修などを企画・実施する時間の確保が十分にできていないことが要因の一つと考えられる。	保護者同士の交流や学びの機会を増やすため、保護者会やミニ勉強会などを計画的に実施できる体制づくりを進めていく。
2	事業所の取り組みや支援内容について、外部への情報発信が十分とは言えない。	支援の質の維持・向上を優先していることから、事業所内での実践や支援内容を外部に向けて体系的に発信する体制が十分に整っていないことが、情報発信の弱さにつながっていると考えられる。	事業所の取り組みや支援内容を分かりやすく発信するため、ホームページの整備や情報発信の方法について検討を進めていく。
3			